

## 4 AL型授業実践報告

### 7) 英語科

#### a) 今年度の取り組み

英語科は今年度、アクティブラーニングに関して次のような取り組みを行った。

科目名	内容・方法など
コミュニケーション 英語	・音読活動の充実（種類の充実、音読の意義の説明） <u>1・2年</u> ・チェンレター（ワークシート上でのディベート） <u>2年</u> ・生徒同士で書いた文章の添削 <u>1・2年</u>
英語表現	・Lesson のまとめとして生徒自身の経験についてスピーチを書かせてグループ、全体で発表 <u>1年</u> ・各課の英作文の問題 各自の解答をグループで発表し合い、修正をして正解にたどり着く。全体で発表して検証。 <u>2年</u>
土曜補習	・進研模試の過去問の長文読解問題を使用。各自で解答後、グループで答えを確かめ合い、なぜそうなったのかを議論。代表に発表させて全体で検証。 <u>2年</u>

#### b) 実践後の教員の反応

・様々な種類の音読を行うことで、単調さを防ぎながら何度も本文に触れさせることができた。また、語彙の定着や、4技能への波及効果などを説明することで、これまでよりも積極的に音読に取り組む姿勢が見られるようになった。自宅学習でも音読に取り組む生徒が増えたように感じる。しかしながら、音読に終始しているだけでは、いずれ飽きが出てしまうと思う。今後は、音読を発表活動などにつなげるなどして、音読の動機づけになるような工夫をしたい。（コミュニケーション英語）

・ワークシート上でのディベートの後に、書いたことを基に口頭でのディベートにつなげようとしたが、うまくいかなかった。ディベートのトピックや論の運び方が生徒にとって馴染みがなく、うまく自分の意見を書けない生徒が多かったからだ。今後は論理的な文章の書き方について指導したい。（コミュニケーション英語）

・英作文のすべての授業においてこれまで以上に辞書を熱心に引いたり、意見を出したりして積極的に考えようとする姿勢が見られた。今のところマイナスの印象はないが、生徒が活動している際教員がどのように支援すればよいのかが今後の課題である。（英語表現）

・スピーチ活動の原稿について、一部の生徒から「書くのが難しい」「めんどうだ」という否定的な反応が出たが、「クラスの話が聞けて新しい発見があり、興味深かった」という肯定的な意見が多かった。しかし、作文を添削するのに膨大な手間がかかってしまい、生徒へ十分なフィードバックを与えられなかったため、内容面の充実度に課題が残った。（英語表現）

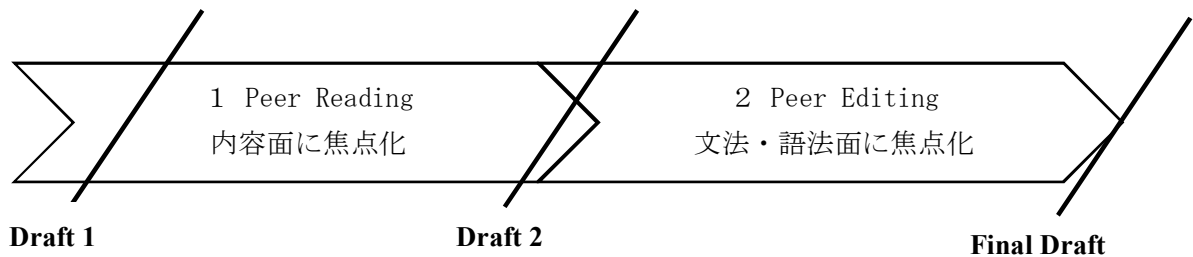
・グループ内での英語力に大きな差がある場合と、英語力が低い生徒が集まった場合ではうまくいかなかった。今後はグループのメンバー決めについて十分配慮しなければならない。（土曜補習）

### c) 実践事例 ～プロセスライティングを用いた2年生コミュニケーション英語の実践～

本校の生徒は人前で意見を言うことに慣れていない生徒が多く、英語で話すことのプレッシャーも大きい。そのため、まずはライティングで自分の意見を書くことに慣れさせる活動を行った。しかしながら、ライティングについても抵抗のある生徒が多い。そこで、プロセスライティングという手法を用いれば、ペアと共に段階的にライティングの質を高めていけるということが分かった。

#### ①プロセスライティングについて（指導案を次頁に掲載）

ライティングをする際には fluency(流暢さ)と accuracy(正確さ)の問題がある。プロセスライティングはこれらの2つの要素に考慮しながらライティングの質を高めていくことを狙っている。進行は下図の通りである。



生徒はあるテーマについて書く(Draft 1)。そして、ペアになってお互いの書いたものを交換し、内容面に焦点を当てさせる(1. Peer Reading)。ペアの作品を見ながら、次のような記号を記入するように指示する。

- ・内容的に良かった部分・・・下線とその横に「○」
- ・内容的に不明な部分・・・下線とその横に「？」
- ・内容的にもっと深めた方がいい部分・・・下線とその横に「more」

ペアからのフィードバックをもらった後、それぞれの生徒はDraft 2を書く。

今度はDraft 2をペアで交換し、文法・語法面に注意を向ける(2. Peer Editing)。ペアの作品を見ながら、文法・語法面の誤りがあれば、下線を引き、次のような記号を記入するように指示する。

- ・時制の誤り・・・「T」(tenseの略)
- ・SVの一致の不備・・・「SV」

最後に、ペアからのフィードバックをもらった後、Final Draftを書いて教員に提出する。

#### ②成果と課題

内容的に良かった部分に「○」をもらうことで、さらに書く意欲が高まったという生徒もいた。また、お互いの意見を知ることができて楽しいという意見も多かった。一方、内容面で何を書けばよいか分からない生徒は、ペアのフィードバックを活用しながら不足面を補うことができた。また、間違いを気にしがちな生徒も、指摘される間違いを思い切って「時制」と「SVの一致」に絞ったことでのびやかに書くことができた。

今回指摘されなかった間違いも含め、いかに正確さを高めていくかが今後の課題である。今後は書いたものをグループ内やクラス内で発表したり、お互いを評価したりするなどして、さらに生徒の主体性を育むような授業展開を意識していきたい。

(文責：片桐)

【AL 型授業の実践例】

単元名) Unicorn English Communication 2 Lesson 8 Global Water Issues (section 4 終了後)

授業の狙い: ①パラグラフ内の論理的な文構造を知る。②プロセスアプローチを用いてライティングの内容面の向上を図る。(文法・語法面の向上は次時に譲る)

Stage	Purpose	Material	Procedure
Introduction (5min)	Section 4 の重要 語句の意味確認	・フラッシュ カード	・単語や重要語句の意味や発音の確認 ・Lesson 8 の全体の内容に触れ、生徒に本文 を思い出させることで次の要約活動につなげ る。
Summary Construction (10min)	本文の内容理解お よびパラグラフの 論理的構成に意識 を向ける。	・ Strips of summary sentences ・ パソコン、 プロジェク ター	・ つなぎ言葉のリストを事前に配布し、その 中で Lesson8 の中で特に注目する種類のもの を説明 ・ ワークシートの中のつなぎ言葉を太字に し、論理的なつながりを意識させながら要約 文を完成させる。
Reading Comprehension (10 min)	地球上の水の動き に関する文を読 み、Q&A により内 容確認を行う。	・ワークシー ト ・ パソコン、 プロジェク ター	・ プロジェクターで答えを提示し、内容確認 ・ Reading の際に、水不足に関する問題事例 を学ぶことで、この後の Writing 活動で自分 の意見が書きやすくなるように配慮する。
Writing Draft 1 (8 min)	Reading の中で読 んだ内容について 自分の意見を書 く。	ワークシー ト	・ Reading の中で読んだ内容を基に、その解 決方法など自分の意見を 4 文以上で書かせ る。
Speaking & Feedback on <u>Content</u> (12 min)	自分の書いた意見 をペアに伝え、ペ アからのフィード バックをもらう。	ワークシー ト (Draft 1)	・ ペアで自分の書いたものを口頭発表 ・ ワークシートを交換し、Draft 1 の内容面 について「①良かった点・②不明な点・③も っと内容を深めた方が良い点」にそれぞれ 「①!・②?・③More」と記入する。感想を 一文で書く。
Writing Draft 2 (3 min)	フィードバックを 基に Draft2 の作 成	ワークシー ト (Draft 2)	・ ペアからももらったフィードバックを利用 し、Draft1 の内容面の改善。Draft2 を作成
Consolidation (2 min)	次時の内容予告お よび宿題の指示		・ Draft2 を家庭で完成させるよう指示 ・ 次回は文法・語法等の正確さに留意しなが ら Writing 活動を行うことを予告